

令和6年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県央会場

科目 ③LGBTQ への理解と誤解や偏見の解消

- ◆ ジェンダーレスという言葉が近年よく聞かれますが、ある程度大人になってからという印象が強く、子どものうちから悩んでいる事実には驚きました。それと同時に、今まで見てきた子どもたちの中にももしかしたら悩んでいた子どもがいたのでは... と心配になりました。今まで気にせずと言っていた男だから女だからという言葉も傷つけてしまっていなかったか、改めて感じさせられました。今後はよく話し、その子自身をしっかりと見てあげたいと思います。
- ◆ 性自認に悩む子どもたちにとって、私たちがどれだけの支援ができるかを考えたときに、まずは多様な性についての知識をしっかりと持つということ、その上で、日常生活での様々な困難さが生まれていることを理解したいと思いました。心理的な問題を抱えている場合もあり、精神的なサポートは専門機関との連携が大切であるとも感じました。一人ひとりの個性を受け入れ、寄り添える環境作りを大人の私たちが築き上げなければという責任を感じました。
- ◆ 放課後児童支援員として、子どもたちへの対応で、例えば「男だから」や「女の子らしく」など、残念ながら今でも耳にします。研修で見せていただいたランドセルの CM をみて、自分が好きで選んだと笑顔で言える子どもたちが増えてくれたらいいなと思いました。
子どもであっても、一人の人間として尊重し、かかわりを持ち、接していきたいです。
- ◆ 当たり前生きていたいただけなのに、声を自ら上げないと生きている認知さえされない。そんな子が気を許し、ほっとできる場所が少しでも多くあれば、息がしやすくなるのではないかと感じました。悩んでいる子どもがカミングアウトしてくれたとしたら、そのときは、慌てず、急かさず、ゆっくりじっくり話を聞きたいと思いました。
- ◆ 性的マイノリティーについて、カミングアウトをするのはとても勇気がいることであり、信頼しているというメッセージであること、子どもが SOS を出しやすい環境を整えることの大切さを学びました。不安や怒りを感じるのは、先生が要因となっているケースもあるということを知り、「性別違和のない男女が普通」という刷り込みに気づくこと、LGBTQ についての知識を増やすこと、その子らしさを尊重することを心がけていきたいです。